

式 辞

春の訪れを感じる今日の佳き日、本日ここに、大阪府教育委員会ご代表様をはじめ、多くのご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、大阪府立港高等学校 第66回卒業証書授与式を挙行できますことを心から嬉しく思います。

ご来賓並びに保護者の皆様には、公私何かとご多忙の中、ご出席を頂き、誠にありがとうございます。職員一同、厚くお礼を申し上げます。

また、保護者・ご家族の皆様におかれましては、これまで卒業生を暖かく励まし、支えてこられた 限りない愛情とご苦勞に對しまして 深く敬意を表すると共に 今日佳き日を迎えられることを、心からお祝い申し上げます。

只今、卒業証書を授与された、301名の皆さん、卒業おめでとうございます。

今、皆さんの胸の中には、本校で学ばれた これまでの様々なことが思い出として心に刻まれていることと思います。

昨年4月に本校に着任した私自身は、皆さんとは僅か1年足らずのお付き合いでしたが、今日ここにおられる何人かの人とお話したことや 体育祭や文化祭、部活動で活躍されていた姿を思い出します。特に体育祭の応援団で見せたリーダーシップや力強い演技は強く印象に残っています。

さて、先月開催されたソチオリンピックでの日本人選手の活躍は、私たちに多くの夢と感動を与えてくれました。各競技において選手が見せたパフォーマンスと共に選手のパーソナリティや経

歴に、ベテラン選手の不屈の闘志と若手選手の物怖じしないチャレンジ精神に、胸が熱くなったのは記憶に新しいところです。

中でも私は、スキージャンプ競技の葛西紀明選手やモーグルの上村愛子選手、そしてフィギュアスケートの浅田真央選手の在り様は、夢を持つこと、チャレンジすること、そして諦めないことの大切さを、身をもって私たちに教えてくれるものであったと思っています。

立場の違いはありますが、皆さんの卒業に当たって、この「夢を持つ」「チャレンジする」「諦めない」という3つの言葉を贈りたいと思います。

皆さんはこれから、それぞれの道を歩いていかれますが、これからの人生において、どうか、この3つを忘れないでいてほしいと思います。それと併せて、大切にしてほしいことが、3つあります。

1つ目は、「責任と使命感」です。

3年前の東日本大震災では、大きな災害に見舞われても、暴動や略奪などの自分だけの利益に走らず、優しさやがんばりを自然に表すことのできる、素晴らしい日本人として世界各国から驚きと賞賛を浴びました。世界から届いた日本への祈り【pray for japan】には、物が散乱しているスーパーで、落ちているものを律儀に拾い、そして列に黙って並んでお金を払って買い物をする日本人。電車が混んでるので妊婦に席を譲るお年寄り。電車が動かなくても慌てず騒がず、黙々と歩いて帰る日本人、その歩いている人たちに、パンをあげたり、自宅のお手洗いを開放する日本人、など、すべての振る舞いが、世界の人々の感動を呼びました。同時に日本へは、世界各国から多くの救援隊やボランティアが駆け付け救助活動や支援活動が行われました。地球上に共に生きるということは何かを考える機会ともなりました。このように人間は、自分ひと

りだけの力によって存在しているのではなく、多くの人に支えられて存在しています。家族だけでなく、先生や友人、先輩・後輩、さらには自分の全く知らない人にまで、実は支えられて存在しているということは、この震災を通して実感することができたのではないかと思います。

皆さんはこれから、一人の人間として、社会の中で生きる一員として、自覚と自らの言動に責任を持ち、「自分自身のためだけでなく、社会のために何ができるか」ということを考え、ほんの小さなことで構わない、自分のできることから何かを実践をしていく、実践できる人間であってほしいと願っています。

2つ目は、「感謝の気持ち」です。

今日、こうしてこの日を迎えられるのも、当たり前のことではなく、今、述べたように、ご両親をはじめ家族や多くの人に支えられた、お陰であるということ。自分は一人で生きているのではなく、支え支えられて存在しているということ。自分が生きていること、生かされていることに感謝する気持ちを「お陰様・ありがとう」という言葉と共に決して忘れずに生活してほしいと願っています。

そして 3つ目は、「感動する心」です。

美しいものを美しいと思う。素晴らしいことに心ひかれる。そして、悲しい時には涙する・・・その心です。
書道家で詩人であった 相田みつを氏は、「一生感動、一生燃焼、一生不悟」という作品に添えて、次のように詠んでおられます。

人間が生きているということは、毎日何かに感動し、感激してゆくことだと私は思います。昨日は気がつかなかったものに、今日は新たな発見をして感動する。

年と共に 顔に しわはできますが、心の中にしわは作りたくありません。心の中にしわができたとき 人間は感動しなくなるのではないのでしょうか・・・

感動、感激に金はかかりません。社会的な地位や肩書も 一切関係ありません。

一生悟れなくてもいいから 感動いっぱい、感激いっぱいの いのちを生きたいと思います。・・・

これからの人生、皆さんにもこのようにあって欲しいと思っています。

今、世界はいろいろな意味で先行き不透明、困難山積の時代となっています。民族や国家間の対立や抗争、難民の増大、貧富の格差などが激しくなっています。少子化の日本とは逆に、世界的には人口爆発とそれに伴うエネルギー・食糧・水などの不足が深刻化しつつありますし、自然環境の汚染を典型とする地球環境問題、国内においても景気・雇用対策、東日本大震災の復興対策、原発問題など、数え上げればきりがありません。

このような課題の解決は容易なことではありませんが、これからの社会を生きていく皆さんには、社会の一員として、これらの課題に関心を持つと共に その解決にあたっていくことも期待されているのです。

これまで本校を卒業した2万7千名を超える先輩方が社会の様々な分野で活躍をされています。

皆さんも今日からその一員です。港高校の卒業生であることに誇りを持ち、「自分を大切に、人のため、社会のために生きられる人間」として、夢と感動を胸に、チャレンジすることを忘れず、そして決して諦めず これからの人生を力強く歩んで行ってほしいと思います。

私たち教職員は、皆さん一人ひとりの健康と活躍を心から応援しています。

優しさと未知の可能性を秘めた皆さんと出会えたことに感謝するとともに、皆さんのこれらからの前途が幸多いものとなることを祈念し、祝辞といたします。

平成二十六年 三月 一日

大阪府立港高等学校長 吉田 景一